

第3回石川町障がい福祉計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年2月26日（金）午後1時30分から

場 所：石川町役場 3階 第2委員会室

出席委員：中野 千恵子、桑澤 恵美子、大野 広光、木戸 美帆、佐久間 高志、高原 孝、
吉田 清美、國井 明

欠席委員：木村 美和

事務局：保健福祉課長 大賀 俊昭、社会福祉係長 草野 竜彦、社会福祉係 小松 昇一、

社会福祉係長 (進行)	定刻になりましたので、会議を始めていききたいと思います。
副委員長	開会の言葉を高原副委員長にお願い致します。
委員長	これから第3回石川町障がい福祉計画策定委員会を開会いたします。
保健福祉課長	(あいさつ)
委員長	(あいさつ)
事務局	それでは、協議事項に入ります。 「石川町障がい者計画・石川町第6期障がい福祉計画・石川町第2期障がい児福祉計画について」、事務局より説明願います。
委員長	(資料により説明)
委員	質疑、ご意見等については、自由討議により行います。
事務局	災害時の避難について、経路や運営、福祉避難所等について触れられてはいるが、実際に初めての場所に慣れないことや強度行動障がいのある方、地域の方の理解不足も考えられるため、いろいろな手法で対応していく必要があると思う。
委員	防災担当課とも連携し、柔軟に対応したい。
事務局	コロナウイルス感染症にも対応した避難所の作り方も必要になってくる。
委員	テントを利用した対応や段ボールのベッドを活用する等、防災担当課を中心に避難所開設の訓練を行っているところ。
委員長	理解促進について、地域自立支援協議会等では取り組みは行っているものの、実際にはなかなか進まないことも実感している。資源の少ない地域性を考え、資源開発を行っていくことの重要性は大きいと思うため、地域の理解促進に対するバックアップを町としても町職員一人ひとりとしても協力してもらいたい。
委員	自治協議会の福祉部会や民生児童委員協議会等でも取りあげられれば良いと思う。
委員	実際に地域に新しい事業所ができることには、肯定的な意見だけでないのはあると思うが、各方面からのバックアップを受けながら地域の理解促進を進められれば心強いと思う。

委員	国の指針も含め、地域生活への移行を強化することが取りざたされているが、なかなか進んでいない現状。特にグループホームは地域移行の受け皿となるサービスで、町担当者も必要性は感じていると思う。入所施設から地域へ移行する際に、本人に合ったグループホーム等が近隣に無いことは地域移行が進まない要因にもなってしまうため、地元にあることの大切さがある。
委員長 事務局	町や私たちも含めた全体で理解を進められればいいと思う。 地域資源が少ないことは本町を含めた石川地方の大きな課題だと考えている。障がい福祉計画の見込量確保のための方策にも記載したが、増加傾向を見込んだサービス提供の整備に努めるため、町としてもできる限りのバックアップを行いたい。
委員	相談支援専門員の養成について、基幹相談支援センター事業を受託している立場として、力を入れているところではあるが、各町村とも協力して進めていきたいと考えている。
事務局 委員長	協力して進めていきたい。 障がいの「がい」の字について、漢字の部分とひらがなの部分があり、ひらがなに統一できるのであれば統一してもいいのでは。
事務局	本計画での「がい」の字の取り扱いについては、まず、計画の対象者については「障がいのある方」という文言で基本的には統一し、文章の繋ぎ方等で「障がい者」と表記している部分も若干ある。また、制度や法令、固有名詞と考える部分は「がい」の字を制度等に合わせた漢字で表記している。福島県の考え方を踏襲した形で、若干の変更を加えて記載内容を検討した。
委員	「がい」の字の取り扱いはいろいろあり難しさもあるが、そのような取り扱いでよいと思う。
委員長	その他質疑が無いようですので、採決を行います。 「石川町障がい者計画・石川町第6期障がい福祉計画・石川町第2期障がい児福祉計画について」を原案のとおり可決してよろしいですか。
委員	(異議なし)
委員長	異議なしのようですので、「石川町障がい者計画・石川町第6期障がい福祉計画・石川町第2期障がい児福祉計画」は原案のとおり可決されました。案を削除願います。協議事項は以上になります。進行を事務局へ戻します。
社会福祉係長 (進行)	ありがとうございました。その他、委員の皆様から何かありましたらお伺いいたします。
委員	(なし)
社会福祉係長 (進行)	会議は以上でございます。閉会の言葉を高原 孝 副委員長にお願いいたします。
副委員長	以上をもちまして、第3回石川町障がい福祉計画策定委員会を閉会いたします。